

健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会

第26期・第3回議事録

日時：令和6年7月7日（日）13:00～15:00

場所：オンライン会議

出席者：出席者：西村、森山、井上、大久保、坂下、亀井、神原、真田、田高、手島、仲上、法橋、
三重野、山本、吉沢、綿貫

欠席者：中村、熊谷、浅野、片田、新福（育休中）、永井（敬称略）

報告事項

（1）委員会等からの報告

- ・ 委員長より、内閣府の有識者懇談会で日本学術会議の在り方が議論されており、臨時総会も7～8月に開催が検討されている旨が報告された。
- ・ 第二部部会が8月8日、9日に岡山大学にて開催予定であり、本分科会から西村会員がオンラインで参加予定である旨が報告された。同日、公開シンポジウム開催も予定されており、副委員長より、日本学術会議第二部公開シンポジウム「ワンヘルス～未来を創る世代とともに考える～」開催に関するお知らせがあった。

審議事項

（1）今期議論の方向性と第1回シンポジウムについて

- ・ 委員長より、本分科会第2回会議での討論内容について会議資料に基づき説明があり、委員会内で再確認を行った。
- ・ それを受け、委員より、「今後の議論として、1. 市民等のステークホルダーに求められるヘルスケア人材として、真に国民に求められるヘルスケア人材が何なのか、2. ヘルスケア人材の連携・共創の在り方、3. ヘルスケア人材共創のための教育と自律性について検討する」とのことであったが3つの違いについて更なる説明の希望が出された。
- ・ 委員長より、「まずは、1. 市民等のステークホルダーに求められるヘルスケア人材として、真に国民に求められるヘルスケア人材が何なのかを議論し明確にすることで、2, 3が進むと考えており、ヘルスケア人材がそれぞれの専門性を学んでから連携するよりも、ヘルスケアの基盤となる教養科目が必要なのではないかと考えている。大きくヘルスケア人材を全体で議論し、そのあとに分かれて議論を進めたい」との説明があった。
- ・ 具体的に何をどのように達成するのかをもう一步理解したいとの追加質問があり、返答を兼ねて委員長より、第1回シンポジウム企画（案）の説明がなされた。
- ・ 「ヘルスケア人材を定義することが必要なのか」、人材に対する定義ではなく「ヘルスの定義が必要では」との意見が挙げられた。委員長より、「ヘルスは優生思想に繋がる懸念もあり、ヘルスに焦点を当てるのかという重要なご指摘である」との返答がなされた。
- ・ ヘルスケア人材の共創とIPE教育との違いはあるのか、各医療職がそれぞれの専門性を確認してこそ協働できるのではないかと、専門性を相互確認してからのヘルスケア人材の育成を検討する方向性、逆に各職種が専門性で分かれずに育成を進める方向性がある、単科大学ではヘルスケア人材

の教育が困難になるのではないかなどの意見が出された。

- ・ 他委員より、他分科会では一億総ケアラーを検討しており、また公衆衛生人材のコンピテンシーを研究している組織もある。国内大学でも既にヘルスサイエンスと言う学部教育があり、その後、専門職に分かれる教育課程が存在する。リーディング大学院では、超学際的・transdisciplinary・プライネタリーヘルス・antidisciplinary という考え方が出てきており、課題が先行し解決できる人材を育成する考えがあるとの情報提供があった。
- ・ 加えて、地域医療が守れない危機の訪れに対してヘルスケア人材のアロケーション、生涯のリカレント、国際間移動も可能となるコンピテンシー、質と効率を上げるためには、各職種が自律性をもって関われる体制の構築が重要であるとの意見も出された。
- ・ 本構想に介護職が入っているのか、医療報酬と介護報酬の違いがあり、職種間の報酬格差が出ている。プライマリケアとして介護も医療も統合して考えていかないと今後難しくなるのではないのか、保健・医療・福祉の全てがヘルスケア人材のメンバーであるという想定で良いのか、他分野との協働を考えているのかの意見も出され、この分科会でどの範囲までを含めるのかが課題であるとの議論となった。これを受け、ヘルスケア人材とはどのような人材であるのかの再定義や「共創」という言葉の意味も吟味する必要があるとの意見が再度挙げられた。
- ・ 看護学分科会として何らかの提言をするのであれば、医療でのヘルスケア人材の共創に焦点を当てて良いのではないのか。他分科会でも人口減少を課題とし人材育成を検討している背景から各分科会の人材育成内容と今後連携をする必要があるとの意見が出され、現時点では、本分科会でブレインストーミング中であるが、I期3年の任期であり、秋には1年が経過するため、そろそろ方向性とゴールを決めていく必要があるとの見解となった。
- ・ それを受け、委員長より、これまで医療者がもっていたコンピテンシーを超えて、人口減少、地域格差等に対応するヘルスケア人材の教育が必要であるとの説明があった。
- ・ 一番は、人口減少に際してヘルスケア人材が何をすべきか、どう共創するのが焦点であり、ヘルスケア人材の教育は、医療職の人材に焦点を当て検討する方向性が、本分科会内でぶれずに議論できる、ヘルスケア人材を定義するよりも、どうあるべきかを議論しながら提案する方向性が良いのではないかと結論に至った。
- ・ 上記の議論を付けて、第1回シンポジウムは、「ヘルスケア人材はどうあるべきか」の視点から議論する方向性で承認がなされた。加えて委員長より、シンポジスト選定の意図について説明があり、承認がなされた

(4) その他

- ・ 第25期看護学分科会の成果である「地元創生看護学」に関する内容を医学書院看護教育に掲載する方向性で進めていることの報告がなされた。

以上